

## 宿根アスターの新品種 '96-124' と '96-126' の育成

後藤 哲・富満龍徳 (大分県温泉熱花き研究指導センター)

Satoshi GOTOH and Tatsunori TOMIMITSU: Breeding of Aster Cultivars '96-124' and '96-126'

宿根アスターの有色系既存品種は草姿や花形、作型適応性等が劣るものや、花心部の褐変、開花の不揃いなど好ましくない形質を有する品種が多いと思われた。そこで、既存品種より草姿や花形が優れ、切り花品質が良く、生育旺盛な2系統を育成した。

## 1. 育成経過

1988年に宿根アスターの既存品種(ミケルマステーザーとシロクジャク)の自然交雑種子を採種し、実生から形質の優れる個体を選抜した。以降毎年、それらの自然交雑、または交配による採種、実生、優良個体の選抜を繰り返した。1994年に10月咲きの作型で同年の実生約5,000個体の中から草姿や花形が優れた168個体を選抜し、栄養繁殖して、1995年10月咲きの作型で31系統を2次選抜、1996年に5月咲きの作型で6系統を3次選抜した。同年10月咲きの作型で最終検定を行ったところ'94-124'(明紫, JHS カラーチャート No. 8604)と'94-126'(鮮紫ピンク, JHS カラーチャート No. 8904)の2系統が特に優良と認められた。

## 2. 品種特性

この2系統は同じ交配による兄弟系統で、花色以外は以下のような類似した特性をもつ。

1) 自然開花期は9月10日頃で早生シロクジャクとはほぼ同じ秋咲き早生である。10月咲き作型では消灯後約40日で開花する。

2) 花径は約3cmの中輪、花色は蛍光灯下でよく映える。花心部は淡黄色で花粉は観察されない。舌状花数は作型で異なるが30~35枚である。

3) 草姿は円錐形で在来品種に比べ優れる。茎の伸長は良く高性種で、頂芽の柳芽の発生は少ない。茎の硬さは適度である。茎や葉は緑色で毛は少ない。

4) 草勢は強く、摘心後の芽立ちと生育揃いは良い方

である。うどんこ病抵抗性はシロクジャクと同程度でやや弱い。

5) '早生シロクジャク'に比較して花が大きく花弁数は多いが、花数が少ない。また、'ピンクスター1号'より茎の伸長が早く、花色がやや濃い。

第2表 開花状況と切り花形質 (1996年, 10月咲き)

品種	開花日 (月・日)	切花長 (cm)	切花重 (g)	1次分枝			花茎 (mm)
				枝数 (本)	枝長 (cm)	花数 (個)	
'94-124	10.11	113	49	40	28	105	27
'94-126	10.13	117	56	39	41	143	30
シロクジャク	10.10	103	33	85	31	454	17

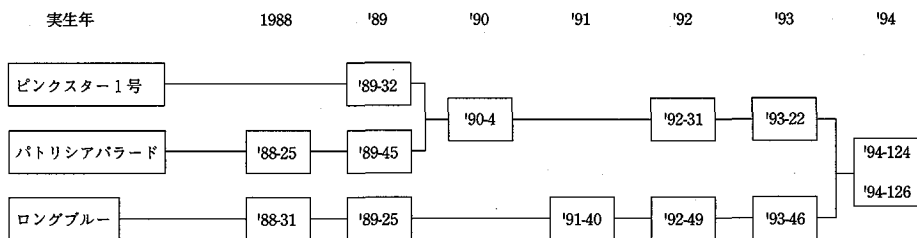
注) 定植: '96.6/25, 摘心: 7/15, 電照: 7/15~9/2, 露地栽培

第3表 開花状況と切り花形質 (1996年, 5月咲き)

品種	開花日 (月・日)	切花長 (cm)	切花重 (g)	茎径 (mm)	1次分枝			花茎 (mm)
					枝数 (本)	枝長 (cm)	花数 (mm)	
'94-124	5.3	115	50	4.6	30	22	30	
'94-126	5.1	118	48	4.7	27	24	31	
シロクジャク	5.7	115	47	4.5	50	31	23	
ピンクスター1号	4.26	86	30	4.1	32	16	30	

注) 定植: '96.1/16, 無摘心栽培, 電照: 2/1~3/12, 2月から夜温約10℃に加温

第1表 育成経過



注) [ ]—[ ] : 自然交雑実生